

# 公益財団法人ニッセイ緑の財団のSDGsへの取り組み

## SDGs(持続可能な開発目標)の主な取り組み

### 全国での森林づくり、イベント運営による地方創生への貢献

- ・1992年(平成4年)から27年目を迎える**全国での森林づくり**、およびそれら“ニッセイの森”における日本生命の役職員や現地の方々等を対象とした**植樹/育樹ボランティア活動の全国での継続実施**
- ・全国での活動を継続する為の新規の森の取得(分取造林契約、および各都道府県、市町村との協定等を通じた森林整備)  
※**2020年に200箇所達成**
- ・“ニッセイの森”の**間伐材を有効活用するイベント**を全国で展開  
⇒上記における、日本全国での森林施業委託やイベント運営協力等を通じた**各地域での雇用機会の創出**

### 包摂性(誰一人取り残さない)を重視した事業展開

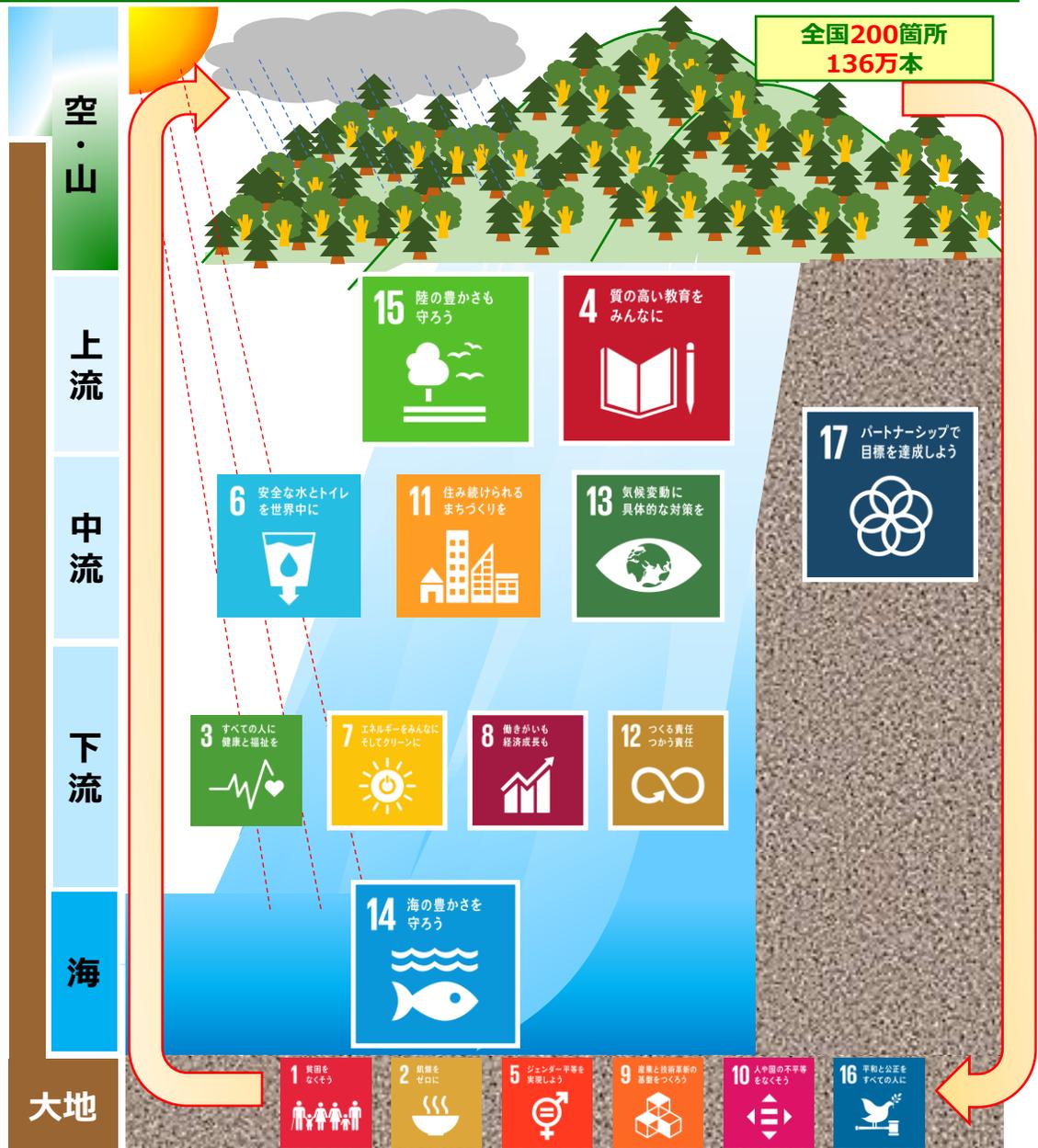
- ・**全年齢層を対象としたイベントの展開**  
“ニッセイの森”の間伐材を使ったイベント等を通じ、森の中で楽しむ要素を取り入れ、健康的な生活に繋がるよう、**あらゆる属性(年齢、性別他)の方々に向け広く展開**
- ・「**樹木名プレート** (“ニッセイの森”間伐材加工)・**学校の木のしおり**」を寄贈し、設置、活用に関わった方々が、身近な自然に親しむ機会を提供(長期的には**小中学校全校への寄贈を目標**とする)

### 環境教育(SDGs達成のカギとなるESD)の推進

- ・“ニッセイの森”を活用した「ふれあい森林教室」や、「森の探検隊」、「自然観察会」を通じて**森林施業体験や環境教育の場(ESD等)を提供**
- ・「**ニッセイ緑の環境講座**」として、新入職員研修や、外部講師をお招きしての講座を実施
- ・「**ドングリ学校**」を取り組み、苗木づくりに取組んでもらうことで、森林への理解を深め、学んでいただく場を提供

### 気候変動(災害緩和)への対応

- ・“ニッセイの森”の**環境貢献度**評価：年間**8,706**万円  
(環境保全(CO2固定)、山地保全(土砂流出防止)、水源涵養(貯水・水質浄化・洪水防止)の4要素における環境貢献度)  
⇒27年間、継続的な森林づくりを行ってきた効果。陸の豊かさへの効果だけでなく**気候変動への対策(=災害の緩和)**といった効果が得られている
- ・適地適木を原則とした、多様な森林づくり：広葉樹占率**37%**(**環境や生物多様性に配慮した森林づくり**)



弊財団の根幹事業である森林づくり活動に最も関連性の強い目標となる15番と4番を上流に位置付け、そこから中流・下流・海、最後は山へ循環する自然の流れに沿って、各目標と財団事業が繋がっている様子を示しております。また大地には、全ての活動・目標の土台となる17番や、それら以外に、当然のことながら取組んでいべき目標として位置付けた6つの目標を記載しています。